

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里(2ユニット合同)		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	平成31年4月6日	評価結果市町村受理日	令和元6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/227/index.php?action_kouhyou_detail_U22_kani=true&amp;iqvosyoCd=2270600493-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/227/index.php?action_kouhyou_detail_U22_kani=true&amp;iqvosyoCd=2270600493-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和元年5月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

富南の郷里は、伊豆の玄関口の三島市の最南端に、函南町との境に在ります。「豆州志稿」の秋山富南が生まれ育った、およそ3000坪の敷地の中に、2階建てで建てております。北方には富士山、東方には箱根連山が見渡す事が出来、心のみ、ゆっくり、ゆたかりとした時間を過ごす環境です。毎年夏に行われる「生き活き祭り」には、近隣の方々、御利用者様、御家族様が参加され、安久の恒例行事となっております。近隣の方々の御理解と様々な応援に支えられ、「その人と共に在る。」を常に想い、御家族様を始め、地域の方々共に連携をとりながら、職員一同、地域福祉の為に努力して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街の中にあり、近くには併設の施設が点在して日常的に交流があります。長く務めているベテラン職員が多く、利用者の様子や特徴がよく理解されていて、きめ細かいケアをしています。訪問した日もさりげない声かけをしていて、利用者がゆったりできる環境を作っていました。春はお花見、夏は施設の庭で花火をしたりノンアルコールビールでビアガーデン気分になっています。1階2階いっしょにランチビュッフェを行ったり、毎月なにかしらのイベントを行い、利用者の生活に変化をつけています。管理者が変わり、今まで培ってきたものを見つめ直し、新しいものを取り入れ、より職員が良い環境で働けるようにしていきたいという意気込みが感じられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人達と共にゆったりゆっくりと第3の人生を共に歩む。」の理念を実践出来る様、御利用者様に寄り添い、日々ゆったりゆっくりと過ごせる様に実践しております。	法人の理念を事業所の理念としている。利用者に寄り添って、理念の実践ができるように日々努力している。今後は理念の実践に向け、職員研修を計画している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の組に所属し、自治会の行事に参加しています。また、法人全体で行なう夏祭りには、地域の方々にお声掛けし交流を深め、地域に貢献出来る様、努めております。	自治会に加入し、地区の仕事には職員と利用者が参加をしている。事業所と会社は、地域とは長らくつながりがあり、経営者も地元の人なので、積極的に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議等、地域の方々との交流の場において、認知症ケアの勉強会等を行ない、認知症について理解を深めて戴ける様に努めている。また、近隣町内の情報を得、私達の専門性を活かせる様、相談を受けながら、お役に立てる様、心掛け活動しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状、研修報告、活動等を報告させて戴きながら、運営推進会議に参加された方々より意見を頂戴し、より良いケアが出来る様、サービス向上に努めています。	運営推進会議の開催日を年頭に決め、2か月ごとに開催している。地域包括支援センター職員、介護相談員、民生委員、区長、家族が参加している。会議内容を工夫し、サービス向上に活かせる内容にしたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員の方々に、運営推進会議に参加させて戴いたり、定期的開催される三島市グループホーム連絡会に参加し、情報交換・情報の共有。市の見解を伺いながら、交流を図っています。また、ケアサービスの向上に繋がる様、積極的に取り組んでいます。	地域包括支援センターの職員には、必ず運営推進会議に参加してもらい、グループホームの現状を理解してもらっていて、意見交換をしている。市主催のグループホーム連携会でも、ほかのグループホームとの交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について外部の研修に参加した職員が、身体拘束廃止委員会で研修報告し、その後施設内での勉強会を行ない、職員全員が周知出来る様に取り組んでいます。日中は利用者様の活動を見守り、施錠をしない、身体拘束をしない、利用者様を尊厳したケアが出来る様、取り組んでいます。	身体拘束委員会を定期的開催し、マニュアルも作成している。外部研修へは職員が積極的に参加してもらえよう会社にバックアップをし、他の職員へ研修内容を伝えてもらって最新の情報を共有している。	

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束について外部の研修に参加した職員が、身体拘束廃止委員会で研修報告し、その後施設内での勉強会を行ない、職員全員が周知出来る様に取り組んでいます。日中は利用者様の活動を見守り、施錠をしない、身体拘束をしない、利用者様を尊厳するケアが出来る様に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を活用されている入居者様がいらっしゃいますので、管理者・職員は制度についての知識を持っています。必要に応じ、関係者と報告、連絡、相談を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、御家族様にも同席して戴き、御理解戴けているかを確認しながら、契約書・重要事項説明書の説明書の読み上げを行なっています。料金の改定等の際は、十分な説明を行ない、御理解・御納得を戴いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、御家族様の面会時に声を掛けさせて戴き、御意見・要望を伺っています。日頃から管理者・職員に伝わりやすい雰囲気を作り、戴いた御意見・御要望が反映される様に努めています。	家族の面会時には、担当職員が意見や要望を伺うようにしている。毎月のユニット会議で、報告をし、職員全体で情報を共有し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議や現場にて、その都度職員の意見や提案を聞く機会を設けています。管理者会議で職員の意見や提案を報告し、反映出来る様に取り組んでいます。	会社の代表者が、年に一度、全職員と個別面談しているが、グループホームの運営に職員の声を活かしきれていない面がある。管理者が変わった機会に、職員と共に新たなグループホーム作りをしたいと考えている。	管理者が職員と個別面談する予定なので、実施され、職員の声を運営に活かすように努めてください。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自職員職務における達成度について評価を行ったり、資格取得や研修等における個々の向上心を把握し、処遇につなげている。又必要に応じ、職員面接を行ない、やり甲斐を持って働ける様、努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせ、シフトが可能な限り研修の機会を設けている。定期的本部にて、管理者等と経営状況や要望等、話し合う機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの研修会や地域密着型施設の地域会議に参加し、情報交換を行ない、サービスの質の向上に努めています。また自施設への見学も積極的に受け入れ、活性化に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で、御利用者様のお話を傾聴させて戴く事で、御本人様の思い、不安な事、困っている事、御要望を把握し、安全で安心な環境を提供出来る様に、努めています。		
		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学・面接にて、御家族様のお話を傾聴させて戴き、不安・要望・御家族様の思いを把握出来る様、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅から入所された御利用者様の場合は、相談・面接時で伺った情報及び、入居前に利用されていた情報から必要な支援を見極めています。また、他のサービスが必要であれば、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様は人生の先輩として尊厳の心を持ち、その都度教えて戴いています。御利用者様が出来る事はやって戴き、出来ない事は支援させて戴きながら、共に生活を支え合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付させて戴いている請求書と共に、御利用者様の御様子をお伝えしている写真付きのお手紙を添えて、御家族様とのつながりを大切にしています。また、全てを施設で補うのではなく、御家族様にも関わりを持って戴ける様お願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に御近所で交流のあった方との御面会や、外出支援も行なっています。御家族様には、可能な限り御協力戴き、外出の機会を設けて戴ける様お願いしています。	家族には、受診や面会の時に、外出や外食の機会をもってもらおうようにしている。グループホームに、利用者の知人や以前グループホームに入居していた人が訪れてくれることもある。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様の個性や生活歴、その時々状況、入居者様同士の相性等を考え、職員が調整役になり、利用者様が関わり合い、支え合える様な支援が出来る様、努力しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先での生活(サービスを含め)が、安全に安心して過ごして戴ける様に、相談にのる様、努めています。その後の様子を御家族様に伺ったり、退居先を訪問させて戴いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今迄過ごされていたお部屋に近付く様に、居室内の家具・箆笥・ベッドの配置に変更し、安全に安心して過ごせる様に工夫しています。居室やトイレ前には大きな文字で表札を設置し、御利用者様に解る様に工夫をしています。	入居時に、本人、家族よりお話を伺い、又、入居後も職員が担当の利用者、家族と相談しながら思いや意向を把握し、共有している。困難な利用者に対しては、表情をみて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者様との会話・コミュニケーションの中から、今迄の生活や馴染みの暮らしを解らせて戴いたり、御家族様から生活歴を伺ったり、以前のサービス利用があれば、情報提供表で情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々御利用者様の個性を尊重し、支援させて戴く事で、お一人お一人の心身の状態を把握に努めています。介護記録を確認し、カンファレンスを行ないながら、情報の共有にも努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃、御本人様のお気持ちを汲み取り、御家族様からの御意向を伺い、毎月看護師を交え、ケアカンファレンス会議を行なっています。居室担当職員を中心に、話し合い、日頃のケアからの気づきを、介護計画に反映させています。	職員は利用者の日頃の様子や家族の要望を把握し、月1回のユニット会議で看護師やベテラン職員を中心にケアカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・体調管理表・排泄表等の介護記録で日頃の状態を把握。介護記録にて実践した内容・結果を記録し、申し送りノートにて気づきを記載、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに生かしています。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様や御家族様の御希望、その時々生まれるニーズに対応して、弊社における同業者間の会議で話し合い、可能な限り柔軟な支援・サービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今迄住んでいた近隣の方の訪問・地域の行事に参加・子供神輿や獅子舞の来訪・職場体験・実習生等の受け入れ等、積極的に行ない、利用者様が馴染みの暮らしを楽しむ事が出来る様に支援させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に御本人様・御家族様の医療を受ける際の御希望を聞き、継続して馴染みのかかりつけ医に通院して戴いたり、ホームと連携している訪問医師に移行し、適切な医療を受けられる様に支援している。	利用者、家族の希望で、継続して今までのかかりつけ医への通院を希望する場合は、家族へ協力を依頼する。その他は、施設と提携している医師に往診を、歯科口腔ケアも定期的に往診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が週に3回健康チェックを行ない、ケア会議にも出席し、気になる事はアドバイスを戴く等、医療面での適切で迅速な対応が出来る様、支援させて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には面会に行き、実際に状態を把握させて頂きながら、主治医や看護師・MSWIに情報提供をお願いし、自施設の対応体制を説明し、相談しながら、早期退院に繋がる様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合や在り方について、自施設の指針を説明させて頂き戴きます。終末期には、往診や訪問看護を利用しながら、御本人様・御家族様との相談を密にし、変化に応じて話し合いを重ねる事で、御本人様・御家族様の御意向に添える様、支援させて頂いています。	入居時に重度化した場合の説明を行い、同意書をもらう。終末期には医師、看護師より説明や相談を家族が受け、職員は家族の要望に添えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、御利用者様の急変時や事故発生時に、全職員が応急手当や初期対応が出来る様、実践力を身に付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年に2回以上の災害時の訓練を実施しています。地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制を気付いています。また、緊急連絡網を作成し、通信・連絡方法の職員訓練も実施しています。	火災、防災、水害の訓練を実施している。併設施設と防災委員会を構成し、協力し合っている。職員の連絡網の訓練も行っている。昨年は職員が利用者の疑似体験訓練も行った。	夜間想定訓練の強化が必要である。地域住民の協力を得ることが難しいとのことなので、併設施設と共に地域の協力を求めてください。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様お一人お一人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを傷つけない様、温かい言葉掛けをし、受容の心で支援させて戴いています。	利用者の日頃の様子を観察し、職員で共有しているので、利用者の表情や発する口癖の言葉で利用者の気持ちを理解している。ベテランの職員を中心に常に職員は意見交換している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、身振り手振りの動作・お顔の表情をよく観察し、御本人様の思いを受け留め、お一人お一人の御希望や自己決定が出来る様に努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースや思いを大切に、その日をどのように過ごしたいかを慮り、体操・リクレーション等も取り入れ、御希望に沿って支援させて戴いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に行ける様支援させて戴いたり、訪問理容を御利用になっています。洋服の選択をしたり、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様、支援させて戴いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食については、朝食は毎日0クックを利用しています。昼食・夕食については、週に4回0クックを利用し、週に3回は調理員が手作りの食事を提供しています。行事として、ランチバイキング形式で行なったり、おやつと一緒に作ったり、片付けをして、生活して戴いています。	食材宅配の0クックを利用している。週に3回は調理専門の職員が手作りをしてくれ、時々ランチブビュッフェも行っている。利用者は、おしぼりを丸めたり、食器洗いや食器ふき等、できることをしてくれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の食事摂取量を主食、副食に分けて毎回記録しています。水分摂取の少ない方には、ゼリーやお好みの飲み物を提供しています。食事形態については、その方の身体状況に合わせて、常食・刻み食・ペースト食で対応しています。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの言葉掛けを行ない、自立支援させて戴きながら口腔ケアを行なっています。義歯の方は、食後に洗浄剤にてつけ置き洗いをしています。御家族様を相談し、半数の御利用者様が訪問歯科を利用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を記入しながら、お一人お一人の排泄パターンを把握し、時間的な言葉掛け。表情、言動、行動に注意を払い、誘導させて戴く等、自立に向けた支援を行なっています。	排泄記録を付け、一人ひとりのパターンを把握してトイレへ誘導している。利用者のおむつかぶれには特に注意をし、皮膚を傷つけないよう洗浄などはこまめに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人お一人の排便周期の把握、朝食前に牛乳を飲んで戴いています。、野菜ジュース・ゼリー等の提供をしたり、体操への参加等、運動をして戴き、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低2回の入浴をして戴いています。御本人様の状態に合わせ、日や時間を差し替える等の対応をしています。状況によっては、時間を問わず、シャワー浴等の対応を行なっています。	週2回は入浴してもらうよう支援している。行事や用事、体調の様子で予定の日に入浴できない場合は次の日にするなど柔軟に調整して楽しんで入ってもらうように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は御利用者様の体調や習慣に合わせて、必要に応じてお昼寝が出来る環境をつくっています。良眠して戴ける様に、リネン類の洗濯、布団干しを定期的に行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方されたり、薬の変更があった場合は、口頭と書面で薬の目的・副作用・用法・用量について、全員が理解出来る様申し送りしています。体調変化に注意深く観察し、記録に記載し、主治医・看護師・薬剤師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の状態・生活歴に合わせて、テーブル拭き・洗濯干し・洗濯畳み・おしぼり畳み等に参加して戴いています。お花見・散歩・ドライブ・運動会・生き活き祭り・芋掘り等に参加して戴き、気分転換・楽しみ事の支援をしています。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人様の意思を尊重しながら、天候・気温に配慮し、外出支援をしています。受診や同敷地内外のお散歩や季節を感じて戴ける様、お花見外出支援をさせて戴いています。御家族様と共に外出し、外食されて楽しく過ごして戴く事もあります。	以前はほぼ毎日散歩を実施していた。利用者の高齢化もあり、最近では天気や季節、利用者の体調に配慮している。お花見は春を感じる機会なので、実施するよう心がけている。家族には外食、外出をして頂くよう呼びかけしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御入居の際に、御家族様にトラブルが有り得る事を説明し、御希望が有れば所持して戴き、お買い物や外出の際に、使える様支援しています。普段所持されていない方は、立替にて購入をして戴いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御希望が有れば、事務所・各フロアから電話を利用して戴いています。入居時の御希望により、個人の携帯電話をお持ち戴いています。御希望により、お手紙・年賀状の支援をさせて戴いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて戴ける様、飾り付けをしたり、リビングの壁三面が窓になっているので、自然の風景を楽しんで戴いています。清掃をこまめに行ない、清潔で明るく居心地の良い環境造りが提供出来る様、取り組んでいます。	居間は風景が見えるように窓が大きく、採光もよく明るい。壁には季節を感じる掲示物があり、ほっこりする。トイレの場所が分かるように、床に色違いの材料が使っている。手作りの収納用品等がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやテーブル・椅子を設置し、相性や体調を考えた席替えを行ない、御利用者様同士で楽しく会話して戴いています。安全に安心して穏やかに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、御本人様の使い慣れた物やお好きな物を御持参戴き、居心地良く過ごせる様に、工夫しています。	天井まで届くクローゼットが各部屋にあり、部屋全体がすっきりとしている。仏壇や使いこまれた衣類タンスが持ち込まれ、家族写真が飾られ、清掃も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を考え、居室内の家具やベッドの位置を変更し、自立支援出来る様、工夫しています。居室やトイレ前に大きな文字で表札を設置し、御利用者様が解る様、工夫しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里(2ユニット合同)		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	平成31年4月6日	評価結果市町村受理日	令和元年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/222/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&iqvosyoCd=2270600493-00&ServiceCd=320](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/222/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&iqvosyoCd=2270600493-00&ServiceCd=320)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和元年5月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

富南の郷里は、伊豆の玄関口の三島市の最南端に、函南町との境に在ります。「豆州志稿」の秋山富南が生まれ育った、およそ3000坪の敷地の中に、2階建てで建てております。北方には富士山、東方には箱根連山が見渡す事が出来、心とみ、ゆっくり、ゆたかりとした時間を過ごせる環境です。毎年夏に行われる「生き活き祭り」には、近隣の方々、御利用者様、御家族様が参加され、安久の恒例行事となっております。近隣の方々の御理解と様々な応援に支えられ、「その人と共に在る。」を常に想い、御家族様を始め、地域の方々共に連携をとりながら、職員一同、地域福祉の為に努力して参ります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人達と共にゆったりゆっくりと第3の人生を共に歩む。」の理念を実践出来る様、御利用者様に寄り添い、日々ゆったりゆっくりと過ごせる様に実践しております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の組に所属し、自治会の行事に参加しています。また、法人全体で行なう夏祭りには、地域の方々にお声掛けし交流を深め、地域に貢献出来る様、努めております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議等、地域の方々との交流の場において、認知症ケアの勉強会等を行ない、認知症について理解を深めて戴ける様に努めている。また、近隣町内の情報を得、私達の専門性を活かせる様、相談を受けながら、お役に立てる様、心掛け活動しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状、研修報告、活動等を報告させて戴きながら、運営推進会議に参加された方々より意見を頂戴し、より良いケアが出来る様、サービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員の方々に、運営推進会議に参加させて戴いたり、定期的開催される三島市グループホーム連絡会に参加し、情報交換・情報の共有。市の見解を伺いながら、交流を図っています。また、ケアサービスの向上に繋がる様、積極的に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について外部の研修に参加した職員が、身体拘束廃止委員会で研修報告し、その後施設内での勉強会を行ない、職員全員が周知出来る様に取り組んでいます。日中は利用者様の活動を見守り、施錠をしない、身体拘束をしない、利用者様を尊厳したケアが出来る様、取り組んでいます。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束について外部の研修に参加した職員が、身体拘束廃止委員会で研修報告し、その後施設内での勉強会を行ない、職員全員が周知出来る様に取り組んでいます。日中は利用者様の活動を見守り、施錠をしない、身体拘束をしない、利用者様を尊厳するケアが出来る様に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を活用されている入居者様がいらっしゃいますので、管理者・職員は制度についての知識を持っています。必要に応じ、関係者と報告、連絡、相談を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、御家族様にも同席して戴き、御理解戴けているかを確認しながら、契約書・重要事項説明書の説明書の読み上げを行なっています。料金の改定等の際は、十分な説明を行ない、御理解・御納得を戴いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、御家族様の面会時に声を掛けさせて戴き、御意見・要望を伺っています。日頃から管理者・職員に伝え易い雰囲気を作り、戴いた御意見・御要望が反映される様に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議や現場にて、その都度職員の意見や提案を聞く機会を設けています。管理者会議で職員の意見や提案を報告し、反映出来る様に取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自職員職務における達成度について評価を行ったり、資格取得や研修等における個々の向上心を把握し、処遇につなげている。又必要に応じ、職員面接を行ない、やり甲斐を持って働ける様、努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせ、シフトが可能な限り研修の機会を設けている。定期的本部にて、管理者等と経営状況や要望等、話し合う機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの研修会や地域密着型施設の地域会議に参加し、情報交換を行ない、サービスの質の向上に努めています。また自施設への見学も積極的に受け入れ、活性化に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で、御利用者様のお話を傾聴させて戴く事で、御本人様の思い、不安な事、困っている事、御要望を把握し、安全で安心な環境を提供出来る様に、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学・面接にて、御家族様のお話を傾聴させて戴き、不安・要望・御家族様の思いを把握出来る様、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅から入所された御利用者様の場合は、相談・面接時で伺った情報及び、入居前に利用されていた情報から必要な支援を見極めています。また、他のサービスが必要であれば、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様は人生の先輩として尊厳の心を持ち、その都度教えて戴いています。御利用者様が出来る事はやって戴き、出来ない事は支援させて戴きながら、共に生活を支え合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付させて戴いている請求書と共に、御利用者様の御様子をお伝えしている写真付きのお手紙を添えて、御家族様とのつながりを大切にしています。また、全てを施設で補うのではなく、御家族様にも関わりを持って戴ける様お願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に御近所で交流のあった方との御面会や、外出支援も行なっています。御家族様には、可能な限り御協力戴き、外出の機会を設けて戴ける様お願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様の個性や生活歴、その時々々の状況、入居者様同士の相性等を考え、職員が調整役になり、利用者様が関わり合い、支え合える様な支援が出来る様、努力しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先での生活(サービスを含め)が、安全に安心して過ごして戴ける様に、相談にのる様、努めています。その後の様子を御家族様に伺ったり、退居先を訪問させて戴いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今迄過ごされていたお部屋に近付く様に、居室内の家具・箆笥・ベッドの配置に変更し、安全に安心して過ごせる様に工夫しています。居室やトイレ前には大きな文字で表札を設置し、御利用者様に解る様に工夫をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者様との会話・コミュニケーションの中から、今迄の生活や馴染みの暮らしを解らせて戴いたり、御家族様から生活歴を伺ったり、以前のサービス利用があれば、情報提供表で情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々御利用者様の個性を尊重し、支援させて戴く事で、お一人お一人の心身の状態を把握に努めています。介護記録を確認し、カンファレンスを行ないながら、情報の共有にも努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃、御本人様のお気持ちを汲み取り、御家族様からの御意向を伺い、毎月看護師を交え、ケアカンファレンス会議を行なっています。、居室担当職員を中心に、話し合い、日頃のケアからの気付きを、介護計画に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・体調管理表・排泄表等の介護記録で日頃の状態を把握。介護記録にて実践した内容・結果を記録し、申し送りノートにて気づきを記載、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに生かしています。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様や御家族様の御希望、その時々生まれるニーズに対応して、弊社における同業者間の会議で話し合い、可能な限り柔軟な支援・サービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今迄住んでいた近隣の方の訪問・地域の行事に参加・子供神輿や獅子舞の来訪・職場体験・実習生等の受け入れ等、積極的に行ない、利用者様が馴染みの暮らしを楽しむ事が出来る様に支援させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に御本人様・御家族様の医療を受ける際の御希望を聞き、継続して馴染みのかかりつけ医に通院して戴いたり、ホームと連携している訪問医師に移行し、適切な医療を受けられる様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が週に3回健康チェックを行ない、ケア会議にも出席し、気になる事はアドバイスを戴く等、医療面での適切で迅速な対応が出来る様、支援させて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には面会に行き、実際に状態を把握させて頂きながら、主治医や看護師・MSWIに情報提供をお願いし、自施設の対応体制を説明し、相談しながら、早期退院に繋がる様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合や在り方について、自施設の指針を説明させて頂き戴きます。終末期には、往診や訪問看護を利用しながら、御本人様・御家族様との相談を密にし、変化に応じて話し合いを重ねる事で、御本人様・御家族様の御意向に添える様、支援させて頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、御利用者様の急変時や事故発生時に、全職員が応急手当や初期対応が出来る様、実践力を身に付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年に2回以上の災害時の訓練を実施しています。地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制を気付いています。また、緊急連絡網を作成し、通信・連絡方法の職員訓練も実施しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様お一人お一人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを傷つけない様、温かい言葉掛けをし、受容の心で支援させて戴いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、身振り手振りの動作・お顔の表情をよく観察し、御本人様の思いを受け留め、お一人お一人の御希望や自己決定が出来る様に努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースや思いを大切に、その日をどのように過ごしたいかを慮り、体操・リクレーション等も取り入れ、御希望に沿って支援させて戴いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に行ける様支援させて戴いたり、訪問理容を御利用になっています。洋服の選択をしたり、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様、支援させて戴いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食については、朝食は毎日0クックを利用しています。昼食・夕食については、週に4回0クックを利用し、週に3回は調理員が手作りの食事を提供しています。行事として、ランチバイキング形式で行なったり、おやつと一緒に作ったり、片付けをして、生活して戴いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の食事摂取量を主食、副食に分けて毎回記録しています。水分摂取の少ない方には、ゼリーやお好みの飲み物を提供しています。食事形態については、その方の身体状況に合わせて、常食・刻み食・ペースト食で対応しています。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの言葉掛けを行ない、自立支援させて戴きながら口腔ケアを行なっています。義歯の方は、食後に洗浄剤にてつけ置き洗いをしています。御家族様を相談し、半数の御利用者様が訪問歯科を利用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を記入しながら、お一人お一人の排泄パターンを把握し、時間的な言葉掛け。表情、言動、行動に注意を払い、誘導させて戴く等、自立に向けた支援を行なっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人お一人の排便周期の把握、朝食前に牛乳を飲んで戴いています。、野菜ジュース・ゼリー等の提供をしたり、体操への参加等、運動をして戴き、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低2回の入浴をして戴いています。御本人様の状態に合わせ、日や時間を差し替える等の対応をしています。状況によっては、時間を問わず、シャワー浴等の対応を行なっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は御利用者様の体調や習慣に合わせて、必要に応じてお昼寝が出来る環境をつくっています。良眠して戴ける様に、リネン類の洗濯、布団干しを定期的に行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方されたり、薬の変更があった場合は、口頭と書面で薬の目的・副作用・用法・用量について、全員が理解出来る様申し送りしています。体調変化に注意深く観察し、記録に記載し、主治医・看護師・薬剤師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の状態・生活歴に合わせて、テーブル拭き・洗濯干し・洗濯畳み・おしぼり畳み等に参加して戴いています。お花見・散歩・ドライブ・運動会・生き活き祭り・芋掘り等に参加して戴き、気分転換・楽しみ事の支援をしています。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人様の意思を尊重しながら、天候・気温に配慮し、外出支援をしています。受診や同敷地内外のお散歩や季節を感じて戴ける様、お花見外出支援をさせて戴いています。御家族様と共に外出し、外食されて楽しく過ごして戴く事もあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御入居の際に、御家族様にトラブルが有り得る事を説明し、御希望が有れば所持して戴き、お買い物や外出の際に、使える様支援しています。普段所持されていない方は、立替にて購入をして戴いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御希望が有れば、事務所・各フロアから電話を利用して戴いています。入居時の御希望により、個人の携帯電話をお持ち戴いています。御希望により、お手紙・年賀状の支援をさせて戴いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて戴ける様、飾り付けをしたり、リビングの壁三面が窓になっているので、自然の風景を楽しんで戴いています。清掃をこまめに行ない、清潔で明るく居心地の良い環境造りが提供出来る様、取り組んでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやテーブル・椅子を設置し、相性や体調を考えた席替えを行ない、御利用者様同士で楽しく会話して戴いています。安全に安心して穏やかに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、御本人様の使い慣れた物やお好きな物を御持参戴き、居心地良く過ごせる様に、工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を考え、居室内の家具やベッドの位置を変更し、自立支援出来る様、工夫しています。居室やトイレ前に大きな文字で表札を設置し、御利用者様が解る様、工夫しています。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	経営側と事業所の情報伝達の円滑性。	職員の声が事業所の声として集約され、法人として検討できる体制を構築する。	事業所の職員と面談を行う。面談の中で抽出した課題を上層部の会議へ上げ、結果を持ち帰る流れを作り、現場と経営をリンクさせていく。	12ヶ月
2	35	夜間想定の実践的な避難訓練の実施。	災害時夜勤者のみでどこまで対応ができるかを職員全員が知ることができる。	年2回の防災訓練で行う。	12ヶ月
3	35	地域との防災連携。	施設の防災訓練に参加して頂ける。	運営推進会議で防災訓練を行う。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。